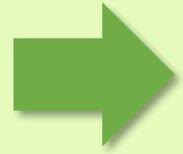


# 繋がりによって見える 福島未来

～福島とこれまで関わりがなかった人に  
復興に参加してもらうには～

柿沼 笑佳  
飛鳥未来高等学校 2年

# 福島の復興について考えるようになったきっかけ



## 今年の秋に※福島学カレッジに参加したこと

双葉町、浪江町の地域住民の方や、  
大熊町に移住された方へインタビュー

震災遺構・浪江町立請戸小学校へ訪問

中間貯蔵施設を見学

※福島カレッジとは、東京大学/環境省等が  
主催している中高生を対象とした  
福島でのフィールドワーク。



# 福島の実況についでの理解

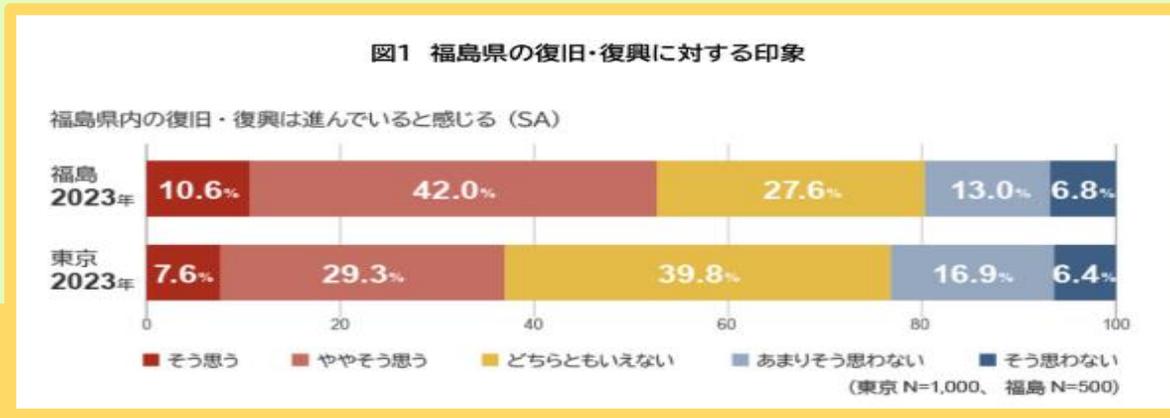
- ・ 今の福島についで具体的に思い浮かべることができる



今の福島についで知っている

- ・ 福島で地震が起きたことは知っているが、今どうなっているかは知らない。
- ・ 今はもう震災のことについでテレビでほとんど放映していないし、関わりがないので正直忘れていた。
- ・ そこ(移住者の方が住んでいる地域)って住むことができるの？

今の福島についで知らない



東京都民は福島県民と比べて、復旧・復興に対し印象を持っていない人が多い。

出所：  
<https://www.mri.co.jp/knowledge/column/20240306.html>

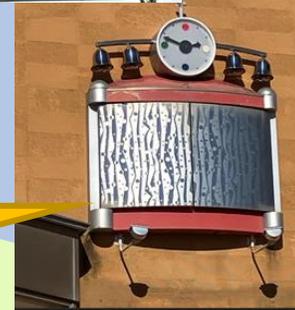
現状の認識の溝を無くすには？

# 福島の実況について理解を深めるには

## 【現地に訪れたり、オンラインなどで現地の人の話を聞く機会をより多く作る】

浪江町在住の  
小黒さん(70代)の話

ニュースで見ると実際に  
見るのでは全然違う。  
実際に見た人の話は記憶に  
残りやすい。  
ニュースだと上の空で  
聞いている人も多いと思う。



疑問

【県外の人から疑問に思ふこと】

『福島の復興って具体的ににはどんなこと？』

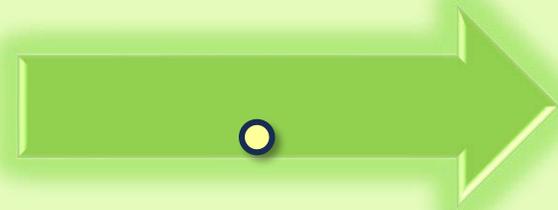
『それは県外の人と何か関係があることなの？』

# 福島復興と県外の人との関係性

## 福島復興

### 県外の人とは無関係？

高校の友人や東京都民の意識調査からは、復興に対する意識が低いと感じられた。

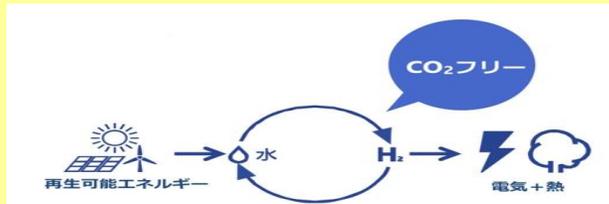


## 福島復興

### 県外の人とも関係がある

福島復興/防災から学ぶことができる

#### 【復興】



出所：  
<https://fukushima-updates.reconstruction.go.jp/article/article001.html>

再生可能エネルギーを利用したCO2フリー水素の電力利用  
→日本全体のエネルギー消費に関わってくる

#### 【防災】



津波が来ても倒れにくい低いお墓  
→全国各地で活用できる防災を福島から学ぶことができる

#### 浪江町在住の 小黒さん

震災というものは完全に想定することができないので、「心構え」が一番重要だと分かった。

# 県外の人にはできる復興

## 東京のコンビニでの私の体験談

福島に行く前に東京のコンビニで、福島産の桃のドライフルーツが売っていた。これもある種の復興参加になるかもしれないと思い、買ってみた。ドライフルーツ自体は前からあったのに、気に留めていなかった。

今まで視界に入っていたはずなのに、見ていなかったものが、福島について意識するだけで見えるようになり、行動することができた。

→この経験から、復興への第一歩は意識することから始まることを学んだ。



## 意識することで見える 復興への入り口

意識する



気付く



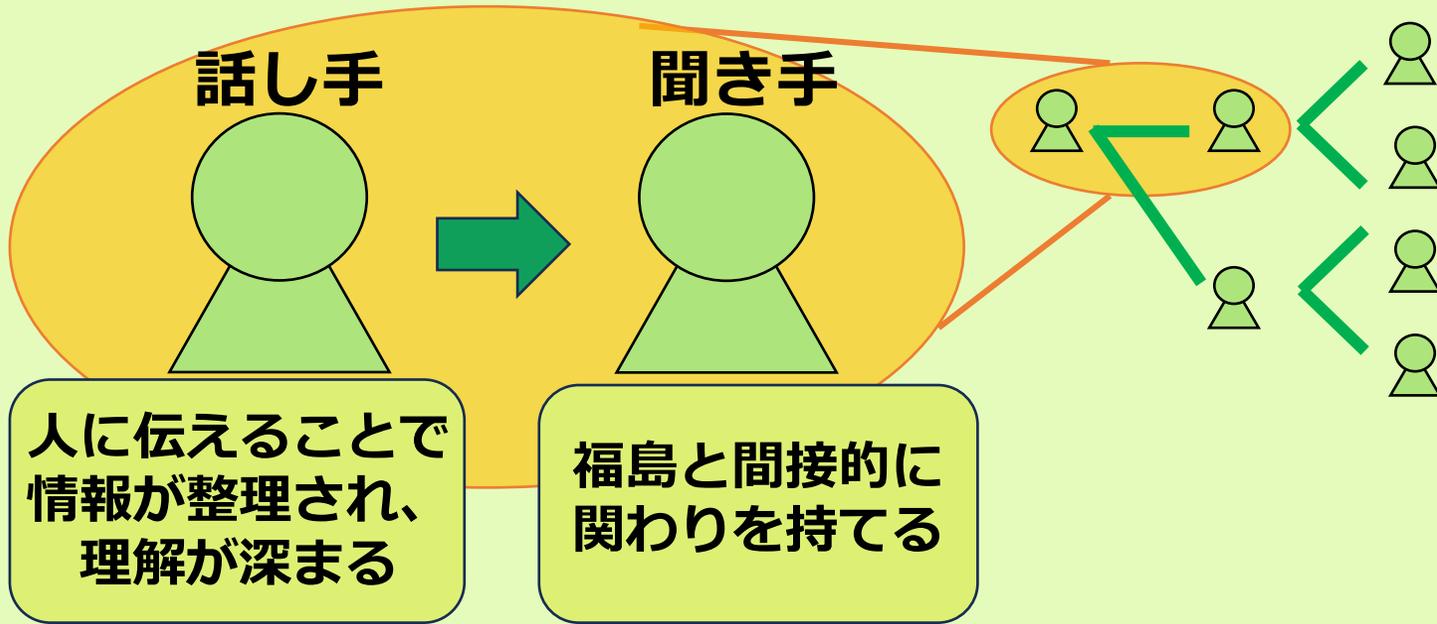
行動する

疑問

より多くの人に福島を  
意識してもらおうためにできることは？

# 伝聞の重要性

# 伝えることで復興は広がる



### 福島の話

県外からやってほしい復興の支援は、ここで学んだことを帰ってからしっかり伝えること。  
【石井さん(大熊町移住者)】

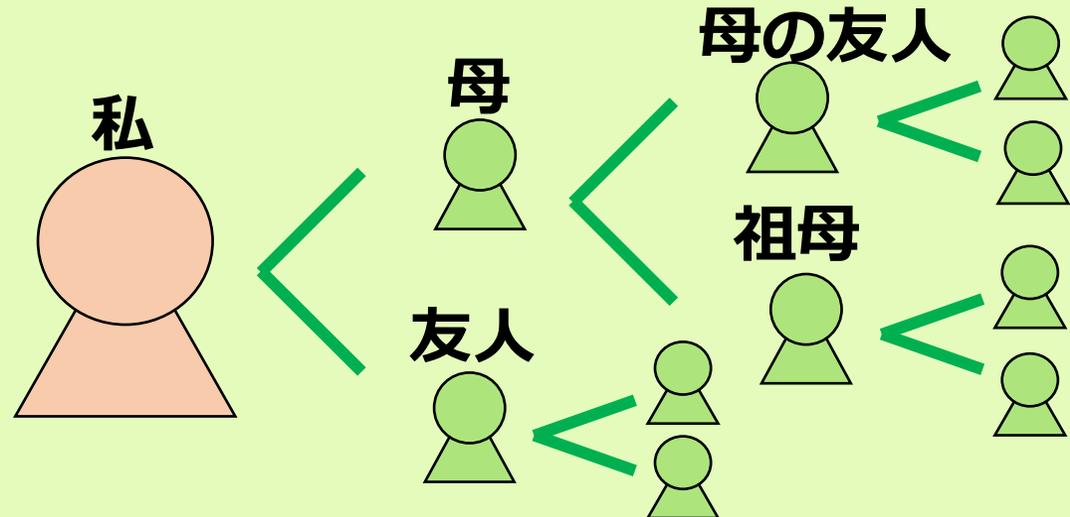
福島について、知ってもらえるだけでありがたい  
【小黑さん(浪江町住民)】

## 私の場合

今回学んで、私が伝えたこと

- 放射線量を屋内で測ってみると0.07 $\mu$ Sv/hと、他の都道府県とほぼ変わらなかった。
- 除染土から放射線量が低い土を振り分けて覆土してお花を栽培し、安全に再利用している。

等



最後に

# ～人と人との繋がりから

## 福島の未来は広がっていく～

福島と関わる人の絶対数を増やし、全国の人々が福島とより密につながることで、さらに復興が進むためのきっかけとなるだろう

メディアが報道していた震災直後の福島ではなく、今の福島を地元の人との交流で知ること

友達や家族に話し、それをまたほかの人に伝えることで間接的に多くの人々が福島に関わること

福島に意識を向けて生活することで、今まで見えなかった新たな選択肢が見えるようになること

福島との繋がりが増えることで・・・

